

図書館報

第十五号

昭和三十五年十二月二十六日
発行所 福岡市西新町

西南学院大学図書館
発行人 山下和夫

アメリカの

大学図書館

中村弘

今回欧米の海外研究の機会に各地の図書館を見学して得た経験の二三について述べたい。私が最初に訪れた図書館はサンフランシスコの南六十哩のマウンテンビューの町の市立図書館であつた。こゝは小さな町で、ロッキード飛行機製作所の近くでそこに勤務する人々がその読者の主な階層であつたようである。ワシントンのあの驚くべき大きな設備と蔵書数を見ると、この小さな図書館など問題にならぬと思うが、しかしそれにしても、殆ど全部門にわたつての代表的な図書が備えてあるのに驚いた。一体にアメリカの図書館はそうであるが何処に行つても、インフォメーションの機能が充実していることであらう。即ち何か自分

が知りたいという目的で図書館に行つた場合館員に相談すれば、直ちに目的に応じて適当な図書を紹介して呉れる仕組である。このような点はアメリカの図書館はすぐれた特色を持つように思われる。

次に図書館利用の仕方であるが、閉架式のものより開架式のものが多い、私が居たルイヴィルの神学校の例をとると、入口に大きなオーバー掛けや持物を置く部屋があつて、こゝにノート以外のものを置いて入館する。番人もそこには居ない。オープン式には図書の損失が幾分あるが日本の程はないとの事であつた。この点では利用者の公衆道徳の水準の相異を私は痛感した。明らかに日本人の公衆道徳の低いことが図書館の

運営をさまたげていると思う。規則や罰則の以前に道徳的水準を高めることが大切である。

大学図書館の多くのものは単に図書設備だけでなく視聴覚の資料を持つてゐる所が多かつた。前記の大学では地下室に冷暖房の設備のための部屋の外にレコードを聞きピアノを演奏する個室(防音装置)があり、レコードライブラリーがあり、マイクロー装置があり百人位の人が入る小集会室があつた。更に四階には古代の先住民の考古資料の展示室があると云う風で我々のあらゆる感覚を通じての機会を作つてゐる点は参考するに価すると思う。

図書館利用の学生の態度も各地で見て廻つたが、それが大学図書館である與其他のものであると問わば非常に静かである点は我々が学ぶべき点であると思う。この点は談話室の設備のない我々の図書館で望むことが無理であるかとも思うが……。

図書館の利用率は大学の学究的水準を示すという人がある。私は種々な理由から必ずしもそうと思わぬが、この言葉は一面の真実を示して

いるように考えられる。私共の大学図書館の利用の状態は試験前に混雑する。ノートを写す為利用されても良いが、これは図書館利用の本筋ではない。欧米の図書館で利用してゐる学生の態度と比較して、もつと我々が他人の意見を素直に受け入れる場として図書館を利用してもらいたいと思う。

告知板

○ 夜間開館時間の短縮

従来夜間は午後九時まで開館していたが、十二月一日から午後七時四十分までに短縮することゝなつた。これは利用者の数も極めて少なく、短大(英・商)の廃止に伴つて夜間の学生の数も激減したので、経費の節約と資料の整理充実の促進を図るためにとられた措置である。勿論、利用者の増加が予想される試験期は従来通り午後九時までとし、又平素でも夜間の学生には一部貸出制限の緩和を行ない、利用者の便宜を計る方針である。

○ 卒業論文の製本

卒業論文は提出する前に経理課で商学部学生は一二〇円、英文科学生は三〇円の製本費を納入しその領收書を添えて教務課に

○ 卒業生の特別利用手続

新らしく細則が決まつた。それによると、利用を希望する卒業生は、特別利用許可願、教授の紹介状、卒業証明書、勤務先証明書、写真二枚それに利用料金月額五十円(年間五百円)を提出して利用できる。ただし一回限りの閲覧の場合は前記許可願と紹介状だけでよいことになつてゐる。

○ 教職関係図書の移動

分類上の都合からこれまで商学閲覧室においてあつた教育学教職関係の図書を二階から三階の教養閲覧室へ移動した。

スイスの図書館である学生に話をしていた時にその学生が来年度は英国の図書館に行くとの事で、そんなことの出来る歐洲の事情を羨しく思うと同時にそのような情熱を持つてゐる歐洲の学生に感心した次第であつた。

(筆者は本学教授・元図書館長)

クローズドブックス

閉架図書案内

— 書庫にはどんな図書があるか —

本館のように開架制度を採用している図書館ではあらゆる図書資料を開架において、利用者の便宜をはかりたいが、開架には不適当な図書があり、又、従来の本館では遺憾ながら若干事故があつたので、今春かなりの図書を閉架書庫に引揚げざるを得なくなつた。

ここではこうした図書を中心にして、開架に不適当なため、従来から書庫に所蔵されている利用頻度の少ない特殊の研究書、史料集や、高価で入手し難い貴重書、豪華本の類、又は公開に適しない和装本の類などについて、ほんの一部ではあるが簡単な紹介を試みてみた。

又、英米文学の洋書については、これまで大部分が開架であつたが、そのうち全集の主なものは書庫に移されたので、以前から書庫に所蔵されてきたものと共に、リストを掲げてみたので、併せて利用されたい。和、洋共、利用希望者は著者名、又は書名目録カードにて検索し、請求番号を明記の上、係まで申し出下さい。

和 漢 書

哲学、宗教関係のものに

「世界大思想全集」(春秋社・昭和三十一年) 一二四冊

「世界大思想全集」(河出書房・昭和二十九年—三十五年)

年) 哲学・文芸思想・社会・宗教・科学思想篇などで在庫しているのは三十六冊、現在なほ継続受入中である。

「講座近代思想史」全九巻(弘文堂)

「西田幾多郎全集」全十八巻(岩波)

「内村鑑三全集」全三十巻(岩波)

「パスカル全集」全三巻(人文書院)

その他、「植村正久全集」全八巻などがある。又、教育関係のものとして「ペスタロッチ全集」全十二巻(現在継続受入中)「近代日本教育制度資料」全三十五巻(講談社) などあり。

「経済学関係の専門書としては日本資本主義の発生、発達諸事情の研究に役立つ明治経済史の資料がある。

(次頁中段につづく)

..... Closed Books.

English and American Literature

English Literature		American Literature	
Barrie, James M.	The Works. 10 vols.	Emerson, R. W.	The Works. 12 vols.
Beaumont & Fletcher	Dramatic Works. 10 vols.	Cather, Willa	The Works. 13 vols.
Browne, Thomas	The Works. 4 vols.	Irving, Washington	The Works. 27 vols.
Bronte, Charlotte	The Works. 7 vols.	Hawthorne, Nathaniel	The Works. 24 vols.
Bunyan, John	The Works. 3 vols.	Henry, O.	The Works. 11 vols.
Carlyle, Thomas	The Works. 31 vols.		
Chaucer, Geoffrey	The Works. 7 vols.		
Charterton, Thomas	The Works. 3 vols.		
Conrad, Joseph	The medallion edition of the works. 20 vols.		
Defoe, Daniel	The Works. 7 vols.		
DeQuincey, Thomas	The Works. 14 vols.		
Dekker, Thomas	Dramatic Works. 3 vols.		
Dickens, Charles	The Works. 20 vols.		
Donne, John	The Sermons. 7 vols.		
Dryden, John	The Works. 18 vols.		
Eliot, George	The Works. 21 vols.		
Hardy, Thomas	The Works. 18 vols.		
Hazlitt, William	The Works. 20 vols.		
Huxley, Aldous	The Works. 24 vols.		
Johnson, Samuel	The Works. 11 vols.		
Kipling, Rudyard	The Works. 12 vols.		
Lamb, Charles	The Works. 6 vols.		
Meredith, George	The Works. 36 vols.		
Milton, John	The Works. 21 vols.		
Moore, George	The Works. 20 vols.		
Morris, William	The Works. 16 vols.		
Pater, Walter	The Works. 11 vols.		
Otway, Thomas	The Works. 3 vols.		
Richardson, Samuel	The Works. 19 vols.		
Ruskin, John	The Works. 20 vols.		
Scott, Walter	The Works. 48 vols.		
Shakespeare, W.	A new variorum edition of Shakespeare. 10 vols.		
Shaw, Bernard	The Works. 36 vols.		
Smollett, Tobias	The Works. 12 vols.		
Stevenson, Robert	The Works. 20 vols.		
Swift, Jonathan	The Works. 19 vols.		
Temple, William	The Works. 4 vols.		
Tennyson, Alfred	The Works. 12 vols.		
Thackeray, W. M.	The Works. 19 vols.		
Thompson, Francis	The Works. 3 vols.		
Webster, John	The Works. 4 vols.		

年も末になると、いつの間にか積み重なっている本の高さを恨めしげに見やる。さしあたって必要ではないものでも、いつかはと思つて次ぎに、無理をして買つておくと、そのうちに押しつぶされそうになつてくる。読んで、考えて、書いているうちに、新刊書の方は、あらゆる分野から遠慮なく誘惑する。広く教養に関するものは、図書館の方でも、ずいぶん整えておられるが、それでも何かを調べようとすると間に合わないことがある。学生のころのようフルに図書館を利用することができない。夜半の寝覚めでも思いいたれば、搔卷をかぶつて冷たい書齋でメモをとる。どうしても座右の書を漁る。そして各人各説の所論を帰納してゆく。

たつた一つの古典語についても、時代の変遷があり、個人差がある。たとえば、「観念」という語を西鶴

は「あきらめる」という意味で用いるし、芭蕉は「思念する」の意味にしている。同一時代の人でもこうである。また、芭蕉の「あかあかと日はつれなくも秋の風」の「あかあかと」にしても、幸田露伴は「秋の夕日が野山にさしたところは実際あかあかとして又つれなきを感じるものだ」といい、安倍能成は「秋の日が暮れ近く傾いて赤味を帯びて弱々と斜に射して居るのです」と、現代的な感覚でこの句の印象を繊細に感じとつてい

る。ところが「あかい」という江戸語は、このような真赤な残照を表わすのではなくして、「明るい」という場合に用いたものである。この句の発想契機は、その時の芭蕉の寂しいムードとその自然環境との違和感を「あかあかと」という語によつて表現したところに存するのである。さらに、「閑さや岩にしみ入る」という「蟬の声」で

も、この蟬の種類について、さまざまの意見がある。斎藤茂吉はアブラゼミの、いわゆる「蟬噪」が、しかも全山これ蟬時雨であつて、それが「岩にしみ入る」のだとして、すなわち、茂吉の近代的感觉によつて、この句に内蔵するものを詩人と

文学作品の研究

本を読むとき

清田正喜

(前頁より)
 「明治前期財政経済史料集成」全二十一巻。「明治大正財政史」全二十巻(付表として中央財政機関沿革一覽表などがあり。大蔵省編纂・昭和十五年財政経済学会発行)及び「明治財政史」全十五巻・などがある。これら資料に対する歴史的研究の有用性と重要性から、昭和三十年より現在なお継続して、日本銀行調査局の編纂にて「日本金融史資料明治大正編」全二十五巻が刊行され、又、明治文献資料刊行会より「明治前期産業発達史資料」全十集が新しく刊行されている(本館では現在第三集まで受人整理済—書庫に所蔵) その他「日本通貨変遷図鑑」(大藏財務協会)や明治初年における会してシャアブに把握した見方である。

小宮豊隆はニイニゼミであると述べて、まずこの句が吟じられた立石寺の環境説明から説いている。夕暮にアブラゼミはいないのである。一山の寂莫境に一つの蟬の声が静かに、かそけく、しみ透るように鳴いている。それがいつそ閑かさを強めるのだ。このような例を拾つてゆくと、文学作品の研究にあつては、たつた「書ぐらゐを讀破しただけでは、とういへ平氣な顔で講義することは勿論、随想さえもおいそれとは書けるものではない。とつおいつ、狼書しているうちに、積んどく方は容赦なく借金の率を示してゆく。そ

計帳簿としての「帳合之法」—和装本—などの興味深い資料も所蔵されている。

歴史関係のものに
 「異国叢書」全十六巻、「国史大系」五十七巻(吉川弘文館発行)、「故実叢書」全四十一巻(吉川弘文館発行)、「新聞集成・明治編年史」同じく「昭和編年史」などがある。

芸術 美術関係のものに
 「現代世界美術全集」(河出書房)全十二巻。「現代日本美術全集」(角川書店)全七巻。「世界美術全集」(平凡社)全三十六巻及び同別巻十八巻。

れでも買つておかねば、名実ともにお話にならない。こうなると、しみじみと図書館通いをしていた学生のところになつかしい。やはり、どうしても学生の時に、無理をしてでも読書の暇を作り出して、どしどし乱読多読をしておかないと、社会に出てからは、じつくり図書館で読書することができなくなつてしまうものだ。図書館は学生生活の一つの「場」なのである。しかも本学図書館には、最も新しい開架式により、自由に自分の好む本を選択できる特権がある。私たちのころは一つ一つカードをめぐつて、時には、表題と内容の

又「南都十大寺大鏡」全二十七巻(東京美術学校編、大塚巧芸社発行)や岡田紅陽写真集「富士」などがあり、現在刊行されているものとしては、「日本美術大系」全十一巻がある。すでに出版され図書館に受入れられていものは彫刻、中世絵画、近世絵画、陶芸、染織、建築、現代美術、古代絵画の各篇であり、いずれも豪華本である。

その他、「世界陶磁全集」(河出書房新社)、「世界建築全集」(平凡社)「京都御所」(彰国社)、入江泰吉写真集「大和路」などもある。

たこともある。館員に懇願して、こつそり書庫に入らせてもらつたことさえある。

本学のよさには、いわば隔世の感といつたものがある。学生の時にこそ大いに利用しなければ、得難い宝を自ら捨てているようなものだ。最後に一つ。読書にあつては常に批判的であること。広くいえば、くだらぬ娯楽作品についてさえ、こうした眼力を日ごろから養つておけば、その作者のつまらなさには二度とだまされなくなるであらう。

こういうところにも読書の効用はあるものだということである。

(筆者は本学教授)

— 今夏本学にて開催 —

司書・司書補・司書教諭講習を

かえりみて

木村毅

ライブラリアンといえは諸外国では随分と権威をもっているようである。大衆ばかりではない、学者もこれらの前に脱帽する。日頃の労苦に対して感謝するというだけでは、その専門的知識・技能に対して敬意を表するのである。実際、自己流の研究をやっている限りでは図書館は必要であつても、ライブラリアンの必要を感じはしないであらう。アマチュアの独善性を脱却して、研究そのものを科学的に確立しようとするなら、文献の収集・整理・保管からレファレンス・ワークに至るまで十分組織された図書館が不可欠である。図書館専門職員の必要な所以である。

われわれの大学では、本年西日本図書館界の要望に応じて、司書・司書補講習及び司書教諭公開講座を実施した。そのための諸条件が十分整っているわけではなかつたので、準備には相当の苦心を要した。しかし、結果的に見れば、別表の如く予想外に多数の受講者を得て、相当の成果を挙げることができた。本学教授陣を始め、九大・福岡学大・熊大

昭和三十五年度、司書、司書補
司書教諭受講者数

	司書	司書補	司書教諭
福岡県	77	153	140
佐賀県	7	8	0
長崎県	3	8	0
熊本県	7	7	0
鹿児島県	4	5	1
宮崎県	0	5	2
大分県	3	3	0
山口県	4	2	0
広島県	2	4	0
その他	1	2	0
計	108	197	143

（筆者は本学教授、図書館長）
（一九六〇・一一・二一）

・京大図書館事務長、福岡・宮崎・鹿児島県立図書館長など多数の講師諸氏の熱心な御協力のおかげである。実習指導に当つた九大・福岡学大・本学図書館の司書陣の労苦も忘れることができない。既に文部省から修了証書を交付されたもの司書八二名、司書補一八七名、司書教諭の方をなを少し時日を要するようであるが、こうして本学の講習を果した四百数十名のライブラリアンが西日本各地に活躍して呉れることは何といつても喜ばしい。また、彼らを通じて数多くの図書館と本館が堅く結ばれたことは、それに劣らず嬉しいことである。

京都市の都心からバスで東へ約三十分、山科といえは天智天皇御陵のあるところとして昔の人には幾分知られてはいるようだが、現在は京都の閑静な住宅地として発展している。バスの中から見てみると、すぐそれと知れた。というのも、屋上に大きく「京都薬科大学」の看板が上つていたのである。正門を入つて右手の運動場に入ると今度でき上つたばかりの実験教室と向いあつて昨年夏竣工した図書館がある。総面積一、三三三平方メートル（四百坪）、鉄筋三階建の

大学図書館見学記 (1)

京都薬科大学図書館

近代的建築である。運動場に直接面しているのが、建物の周囲は少々殺風景な感じが無いでもない。この図書館の特色は、教室と図書館とを一緒にしていること、一階が図書館、二、三階が講義室および研究室と分けられている。玄関を入ると、大して広くはないが、しよしよやな一階ロビー、そこには盛り沢山の配慮が行き届いている。玄関脇のロッカー設備、洗面設備、手洗、それに利用者への掲示板と閲覧室の入口には塑像をおくなど細かい気の配りようである。ドアを開けると右手にカウンター、左手が閲覧室となる。カウンターはそのまゝ、事務室に連なり、係間の連絡に便な能率本位に考えられている。閲覧室の一隅に参考図書区画があつて辞書と学術雑誌とがオープンである。外国雑誌閲覧室が別室になつてはいるのは、特に理科系大学の雑誌の重要

度を示すものか。明るい室内と清潔なテーブル椅子、珍らしいのは閲覧室の隅に飾り暖炉が設けられていることである。蔵書は専門の薬学関係を中心として二万冊鋼製の書架にきちんと収められていた。それに事務室からドア一つで続いているマイクロ撮影室兼暗室は便利だ。職員数は少なく、七名であるが、設備の全てが、その数を補うかのように便利に機能的に設計されているのである。ともあれ、どれといつて特色も少ないが小じんまりとよく纏つた図書館といえよう。この大学も、本学と同じく終戦後学制改革により新制大学となつたもので、図書館の充実や運営上の問題などにつき色々とお伺ひしたかつたのだが短時間のため、果しえなかつたのが残念であつた。

（山下）

図書館ニュース

○学院図書館協議会の発足 学院の中には大学本館、神学科、児童教育科の各図書館と高等学校、中学校の図書館があり、それぞれ運営管理が独立している。各図書館の提携連絡を密にするために学院図書館協議会が結成されることになつた。まだその具体的な活動内容は定まつていないが、教育の場において占める図書館の重要性から見て、各館の協力態勢がとられることは望ましいことであり、協議会の十二分の活動が期待される。

○図書館界の動き 各地の研究会の動き（本館関係分）を紹介しよう。私立大学図書館協会 全国の私立大学図書館の現況を詳細に調査して、「私立大学図書館総覧」を編集発行し、私立大学図書館の比較研究を行なう事業が進められている。又、最近のマイクロ写真の充実と需要の増加に伴ない、マイクロ写真相互利用規約の成立を見るなど活発な動きが続けられている。福岡県大学図書館協議会 十月二十七日第一回研究会が福岡学芸大学附属図書館で行われ、図書館の利用案内と館内奉仕の設備について研究検討された。